

1-(1) 史跡岐阜城跡山上部の発掘調査成果について

(1) 調査の概要

- ・今年度は**一ノ門**と**天守台周辺**の2箇所で調査を実施。
(対象面積合計約 440 m²)
 - 一ノ門 (約 180 m²) ・ ・ ・ ・ ・ 構造を確認。
 - 天守台周辺 (約 260 m²) ・ ・ ・ ・ ・ 昨年度見つかった信長期の可能性のある天守台石垣をさらに詳しく調査。

⇒各調査区で**成果**が得られた。



調査位置

- 昨年度の調査 (約 1560 m²)
- 二ノ門・天守台周辺・資料館南側・中腹部の4ヶ所を調査。天守台周辺からは信長期の可能性のある天守台石垣が見つかる。

(2) 一ノ門が斎藤道三公により築かれたことが判明

- ・一ノ門は岩盤の高まりの周りに石垣と巨石石垣を組み合わせてコーナー部分を造り出している。このような構造と平面形が山県市大桑城岩門やまがたしおおがじょういづもんと非常に類似することを確認した。
- ・大桑城は16世紀前半に美濃国守護の土岐氏によって築かれた城郭。

⇒一ノ門は大桑城と同じ技術を用いてほぼ同時期に斎藤道三公によって築かれた。



一ノ門全景

- ・岩盤上面を平坦に加工した痕跡と火を受けて赤く変色した箇所を確認した。加工された痕跡は直線上に3ヶ所見つかかり、門の柱を据え付けた跡の可能性が高い。
- ・岩盤を覆っていた土の中からは焼けた壁土かべつちや瓦も見つかっており、1567年の信長公入城後に瓦葺の門に改修され、1600年関ヶ原の戦いの前哨戦による火災で焼け崩れた可能性が高い。



平坦に加工した痕跡

○一ノ門の概要

巨石の大きさ：最大、縦約 1.7m 横約 1.5m

巨石石垣の延長：約 9.5m

○巨石石垣

1.0m～1.5m程の大型の石材を使用し構築された石垣。

○守護

幕府からの命により国ごとに配置され、国の行政や軍事を行う職務。

○土岐氏

清和源氏の流れをくむ美濃を地盤とした武士の一族。室町時代初期には

幕府の信頼を得て美濃・尾張・伊勢の3国の守護を務めた。

○大桑城

16世紀前半に美濃国守護土岐頼芸によって築かれた城郭。

1543年、斎藤道三との戦いで落城。

当時の石垣などが確認されている。

今年度、城の出入り口と考えられる岩門の発掘調査が行われた。

(3) 天守台石垣は2段で構築されていることが判明

- ・天守台の**2段目の石垣**を発掘調査で初めて確認。
→天守台石垣が**2段で構築されていることが判明した**。
 - ・見つかった2段目の石垣は、昨年度の天守台石垣と同様に1567年信長公入城後の石垣の特徴をもっている。
 - ・裏込め石は、天守台石垣の基礎を兼ねていることから**信長期に同時に築かれた可能性が高い**
- ・現在の天守が乗っている石垣の基礎部分でも戦国時代の石垣を確認した。

○2段目の石垣の概要

- ・発掘した部分の長さ約2.0m、高さ約1.2m 最大4段残存。
- 石材同士の隙間に間詰石が詰められ、やや傾斜をつけて積まれている。



2段目の石垣



天守台石垣と2段目の石垣

(4) 信長期の可能性のある瓦が出土

- ・昨年度と今年度の天守台周辺調査でのきまるがわら軒丸瓦とのきひらがわら軒平瓦が出土。
- 軒丸瓦は文様の特徴が**信長公の家臣団の城**である
さかもとじょう明智光秀公の坂本城や、ほそかわふじたか細川藤孝公のしょうりゅうじじょう勝龍寺城などで見つかった瓦と類似。



軒丸瓦

☞見つかった石垣と瓦から、天守台石垣が信長期に築かれた可能性がさらに高まった。

☞今回の成果で信長公は土岐氏や道三公を受け継ぎ、さらに発展させた城造りを行ったことが明らかになってきた。今後も調査を行い、これまで見えなかった歴史に光を当てていきたい。

(5) 報告会及び現地公開について

- ・令和3年1月30日(土)開催の第14回信長学フォーラムで調査成果を発表。
(観覧者は事前募集済み)
また、令和3年2月6日(土)10:00~11:20にオンライン形式による調査成果報告会を山縣市大桑城と共同で開催。大河ツアーガイドのプログラムのひとつとして実施。
⇒戦国ドラマまちEXPOのホームページから事前申込が必要。(料金無料)
 - ・一ノ門については2月8日(月)~13日(土)の9時30分から15時30分の間、現場を公開。柵越しに見学していただける。
⇒新型コロナウイルス感染症対策のため、現地での解説等は行わないのであらかじめご了承ください。
- ☞大河ドラマ「麒麟がくる」でも注目を集めた**岐阜城と大桑城の魅力を知る時は今**。ぜひ一人でも多くのかたにご覧いただきたい。

有識者の評価

なかいひとし
中井 均 氏（滋賀県立大学教授 日本城郭史）

今回の発掘では斎藤道三時代の一ノ門と、織田信長時代の天守台が明らかになった。ここには大きな意味がある。

従来、岐阜城の構造は信長による独創性の高いものと考えられていたのであるが、一ノ門は道三時代の構造をそのまま信長が引き継いだわけである。一方で天守台は信長の独創であった。そこには信長が道三の美濃支配を引き継いだことを道三の城で示すとともに、それまで以上の威光と畏怖を見せつけるために天守を築いたものと考えられる。とにかくこれまでの信長の岐阜城の姿を大きく塗り替える成果となった。